

2024/12期3Q 決算説明資料

2024年11月14日

Hm c o mm株式会社

東証グロース市場

証券コード：265A

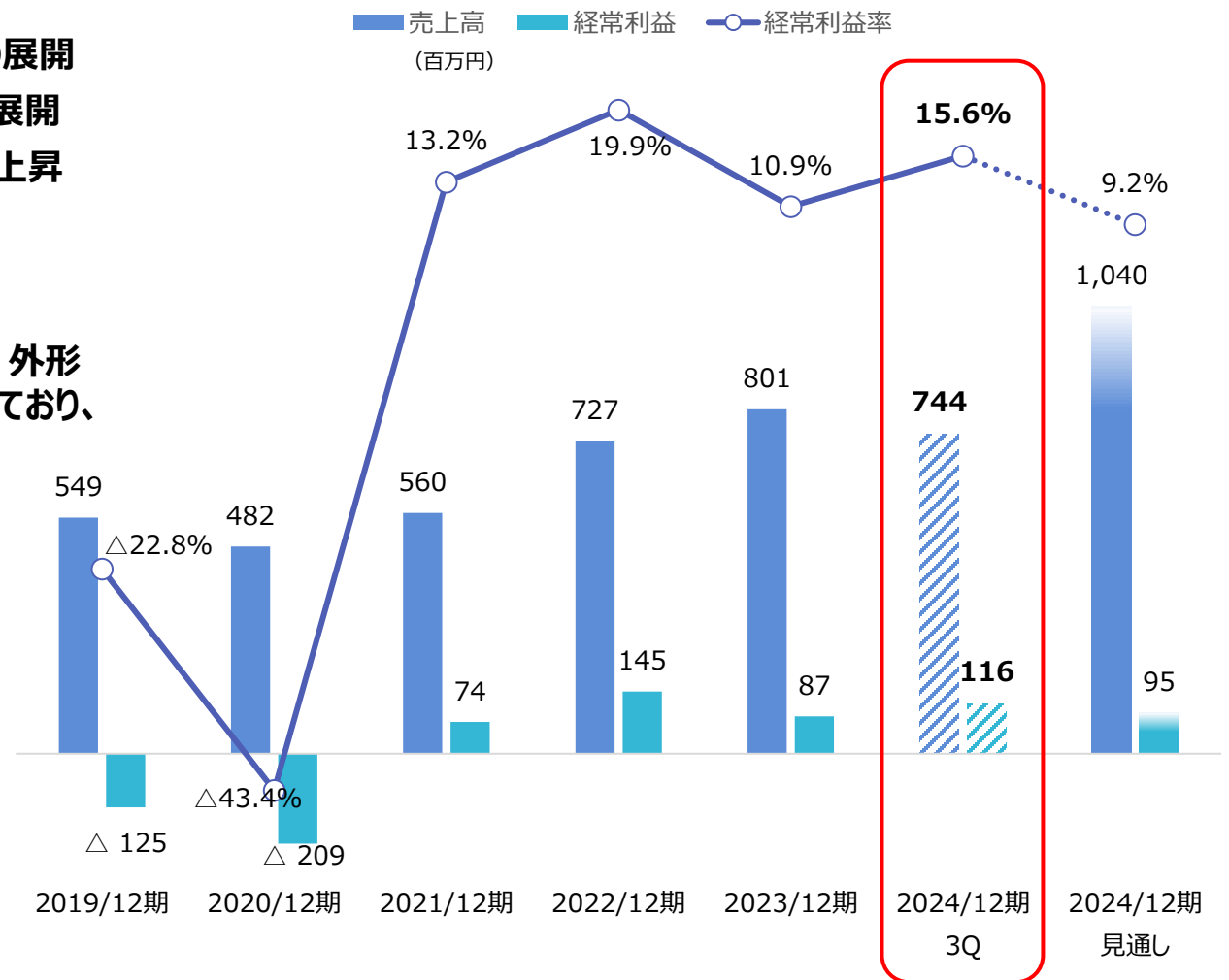
● 2024/12期3Q累計

売上高：7.4億円、通期見通し進捗率71%、ほぼ想定通りの展開
 経常利益：1.1億円、同121%、3Q累計は見通しを上回る展開
 経常利益率：15.6%、2023/12期を4.8pp上回る水準に上昇

● 2024/12期通期見通し

経常利益は通期見通しを超えているが、4Qに上場関連費用、外形標準課税、その他翌期に向けた戦略的支出の計上等を予定しており、業績予想は据え置く

売上高：10.4億円
 経常利益：0.9億円
 経常利益率：9.2%



— agenda

2024/12期3Q決算概要

- 2024/12期3Q単独の売上高は2.9億円。AIプロダクト、AIソリューション共に堅調に推移
- 損益面では3Q単独で2Q累計を大幅に上回る状況。これは上期の一時的な戦略的支出（採用コスト等）がなくなったため

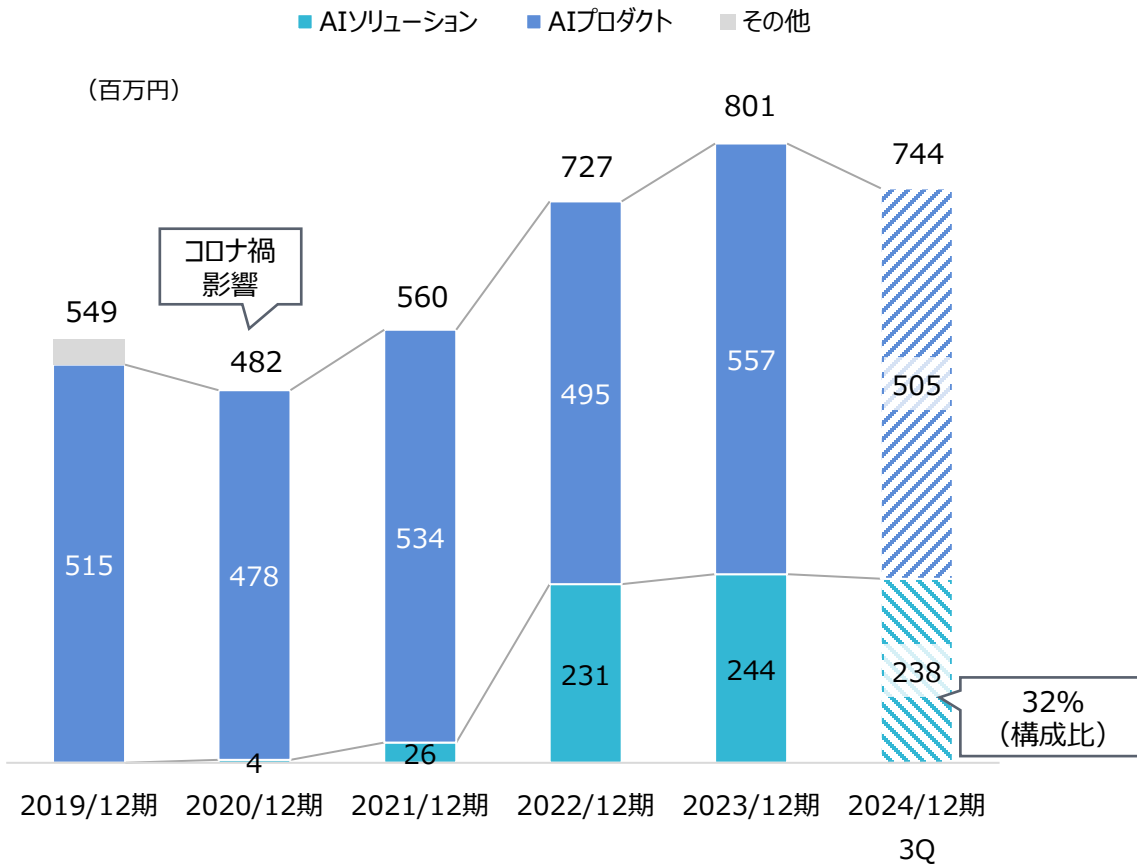
単位：百万円

	2023/12期	2024/12期					
	通期	2Q	3Q		4Q	通期	
	実績	累計	単独	累計	進捗率	見通し（単独）	見通し
売上高	801	446	297	744	71.5%	296	1,040
AIプロダクト	557	303	201	505	76.1%	159	(※) 664
AIソリューション	244	143	95	238	63.4%	137	(※) 376
営業利益	83	22	102	125	96.8%	4	129
営業利益率	10.4%	5.1%	34.6%	16.9%	—	1.4%	12.5%
経常利益	87	20	95	116	121.2%	△20	95
経常利益率	10.9%	4.6%	32.2%	15.6%	—	△6.9%	9.2%
当期純利益	69	38	109	148	145.5%	△46	102
当期純利益率	8.7%	8.7%	37.0%	20.0%	—	△15.7%	9.8%

(※) 当期中の受注動向を考慮し、AIプロダクト事業の売上高の見通しは507百万円（前期比8.9%減）から664百万円（前期比19.2%増）へ、AIソリューション事業の売上高の見通しは533百万円（前期比118.3%増）から376百万円（前期比54.2%増）へそれぞれ修正しております。売上高の見通しの総額に変更はありません。

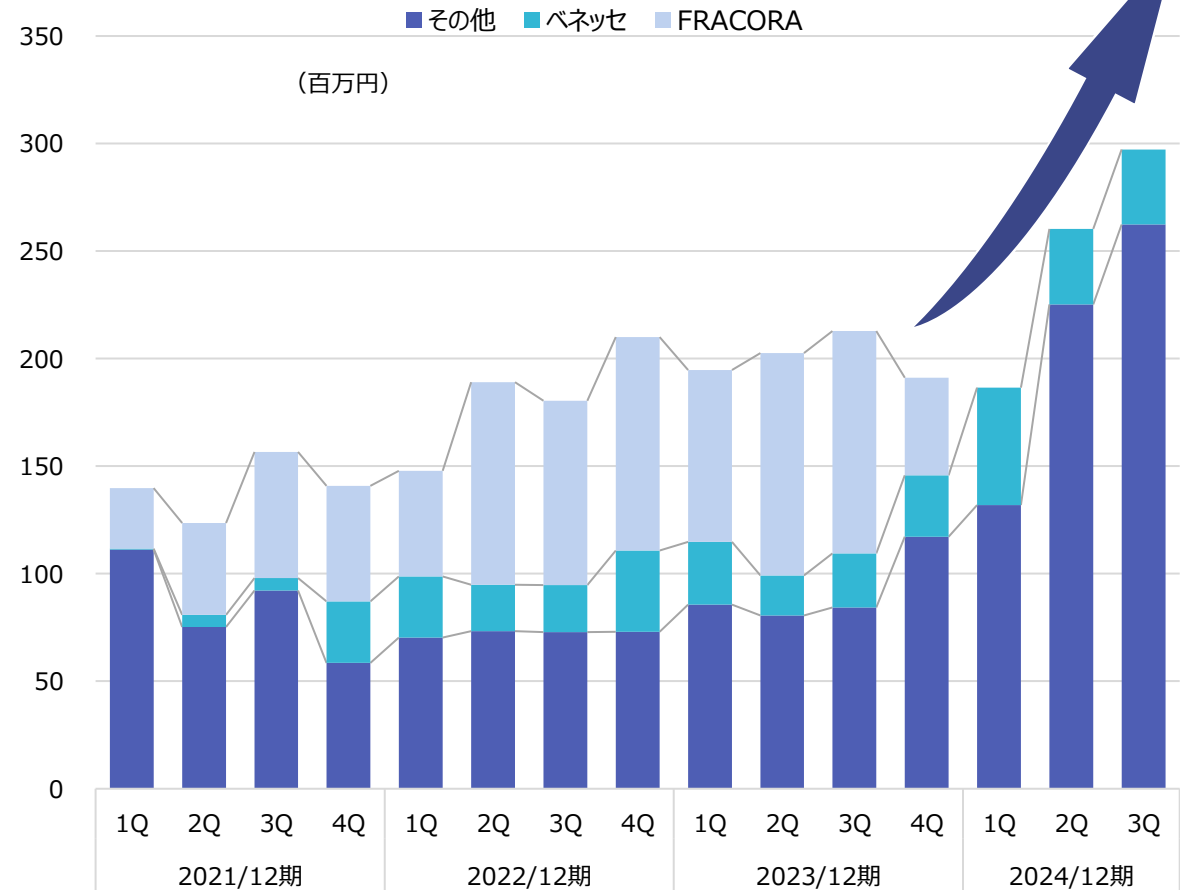
AIソリューション、AIプロダクト売上構成

- 2024/12期3Q累計の売上構成は2Q累計時とほぼ同じ。AIプロダクト展開の先行指標となるAIソリューションは順調に拡大中



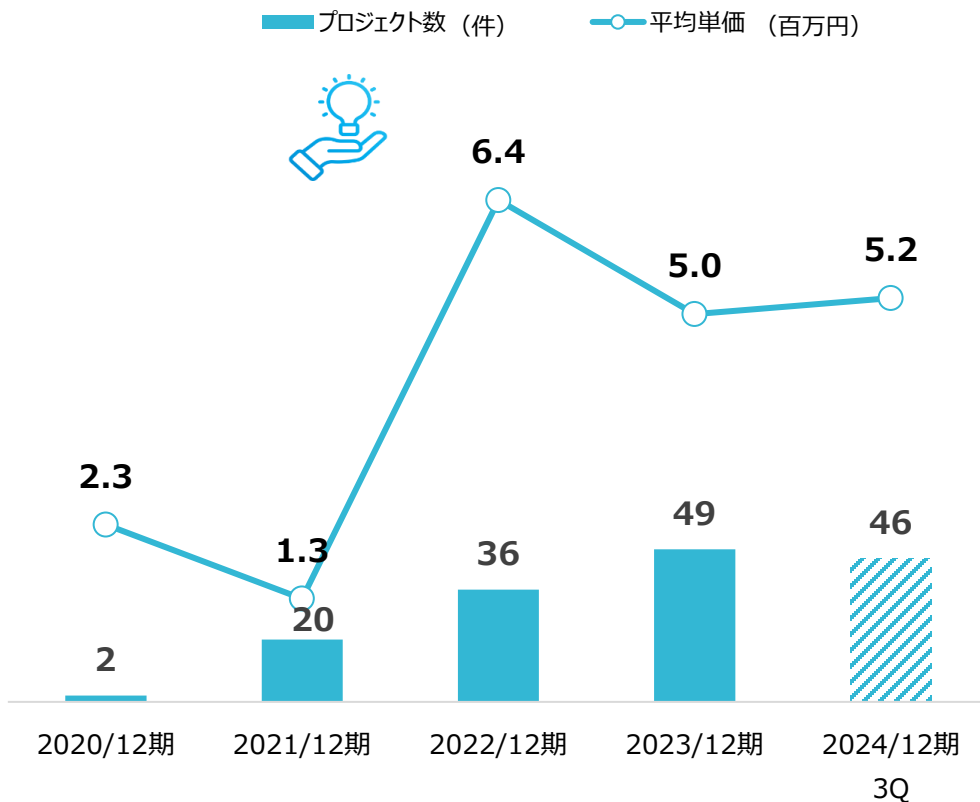
顧客別売上構成

- 2023/12期末FRACORA契約終了の影響を払拭し、新たな成長機会を創出中



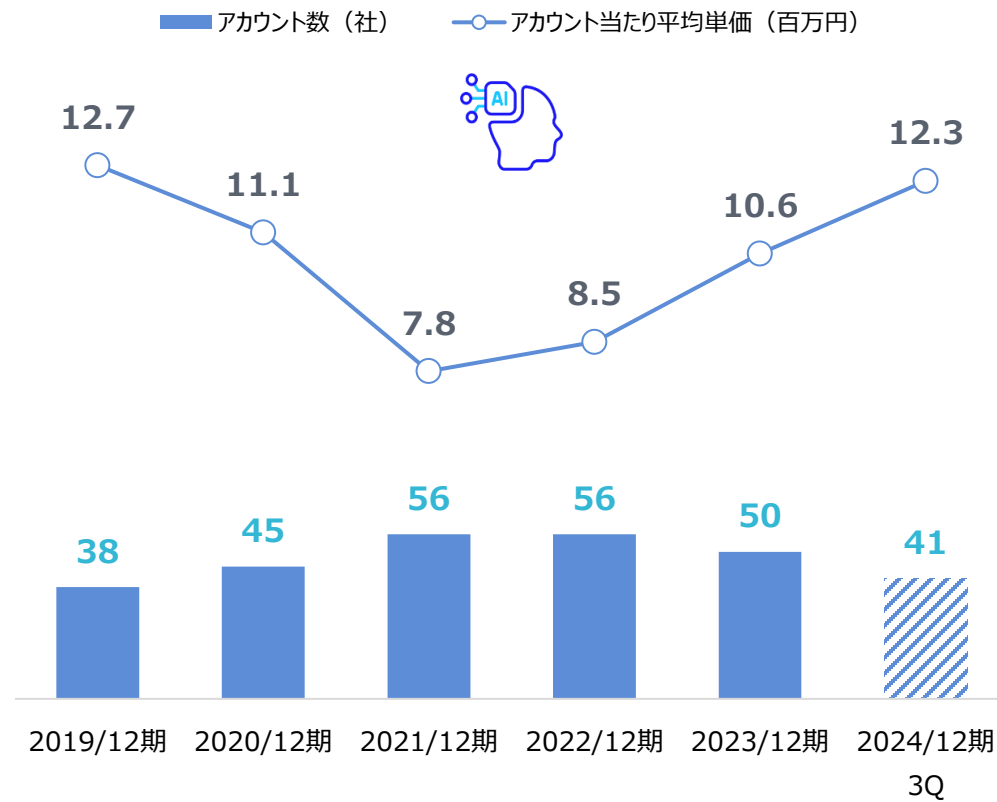
AIソリューション：プロジェクト数と平均単価

- 2024/12期のAIソリューション年間プロジェクト数は3Q時点で46件と、2Q比+9件拡大
- プロジェクトの平均単価は、今2Q時点までは顧客数の拡大による低下傾向にあったが、3Qに入って単価の高い顧客案件が貢献し、単価アップへ



AIプロダクト：アカウント数とアカウント当たり平均単価

- 2021/12期にかけてアカウント数増加を優先し、顧客単価低下したことを受け、2022/12期に平均単価を上昇させる政策に転換
- その効果があり、平均単価は2期連続で上昇中。今3Q時点で前期比+1.7百万円アップ。アカウント数は2Qと同水準で、同一アカウント内での広がりが見られた

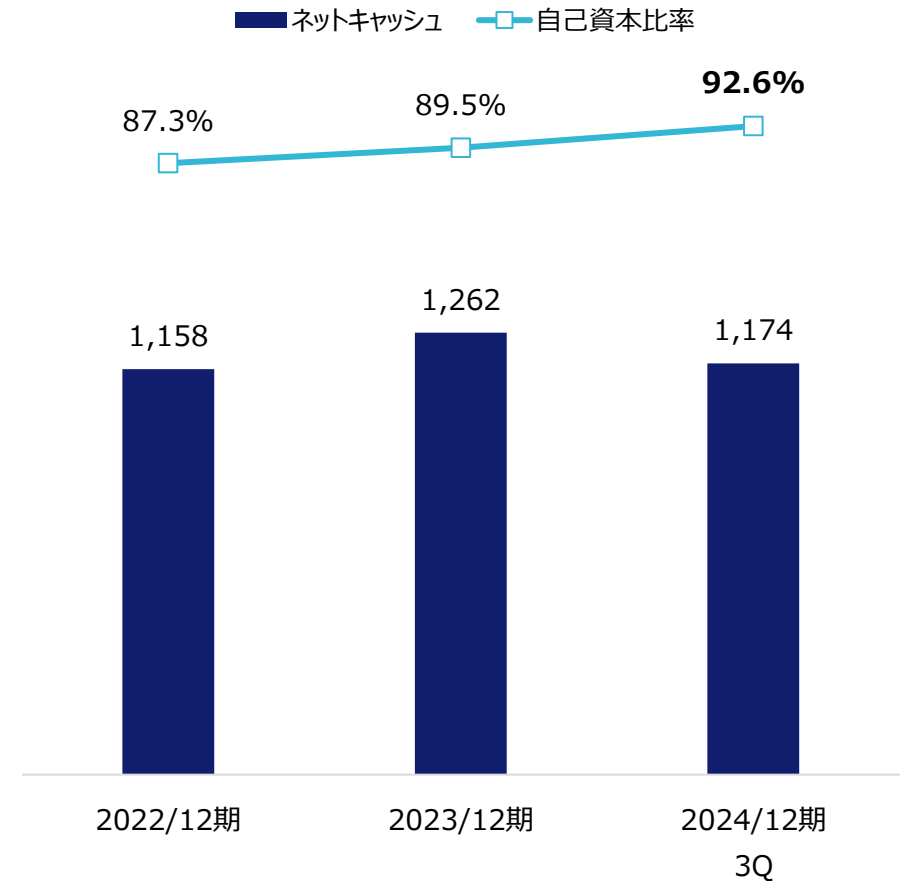


*上記取引先数は、ZMEETINGを除く、VoiceContact、Terry、FAST-Dにて算出

- 有利子負債を完済し、自己資本比率90%超の無借金経営。財務基盤は盤石
- 現預金はやや縮小も総資産に占める割合は70%超の潤沢な水準。投資資金を確保

単位：百万円

	2022/12期	2023/12期	2024/12期 3Q	前期比増減
流動資産	1,428	1,489	1,570	+81
現預金	1,238	1,306	1,174	△132
売掛金及び契約資産	173	164	384	+219
その他	16	17	11	△5
固定資産	59	39	68	+28
総資産	1,488	1,529	1,638	+109
負債	189	160	121	△39
買掛金	23	15	27	+12
有利子負債	80	44	0	△44
その他	86	101	93	△7
純資産	1,298	1,368	1,517	+148



— agenda

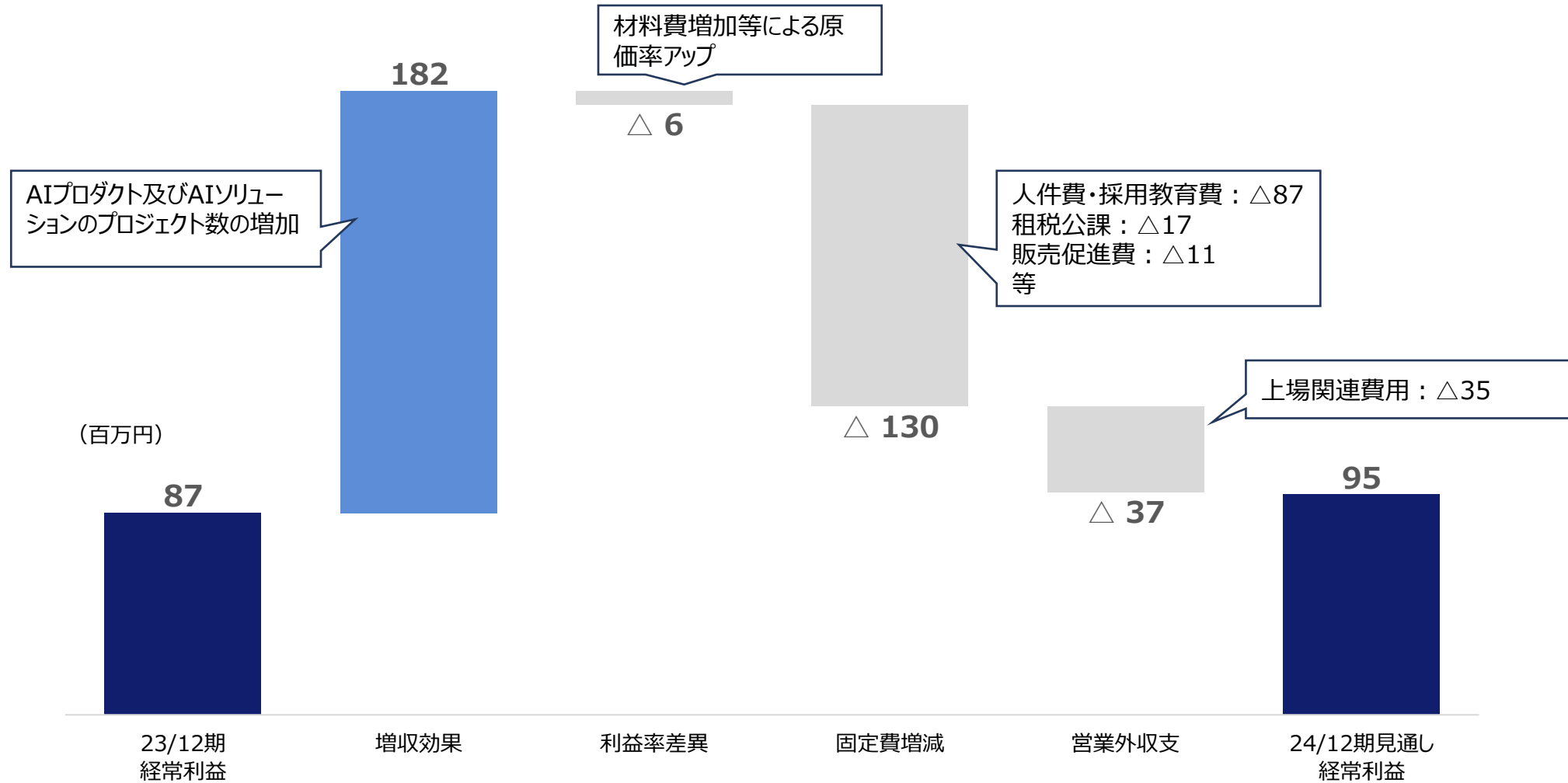
2024/12期通期見通し

- 2024/12期通期は増収増益の見通し
- 売上内訳では、AIプロダクトは、Voice contact大型導入案件の増加により+19.2%の増収見込み。AIソリューションは、生成AIを用いたDXに関する案件増加により+54.2%の増収の見込み
- 3Q累計の経常利益は通期見通しを超えているが、4Qに上場関連費用、外形標準課税、その他翌期に向けた戦略的支出の計上等を予定しており、業績予想は据え置く

単位：百万円	2022/12期	2023/12期	2024/12期		
			見通し	前期比増減額	前期比増減率
売上高	727	801	1,040	+239	29.9%
AIプロダクト	495	557	(※) 664	+107	+19.2%
AIソリューション	231	244	(※) 376	+132	+54.2%
営業利益	88	83	129	+46	+55.6%
営業利益率	12.1%	10.4%	12.5%	+2.1pp	—
経常利益	145	87	95	+8	+10.1%
経常利益率	20.0%	10.9%	9.2%	△1.7pp	—
当期純利益	170	69	102	+32	+46.6%
当期純利益率	23.4%	8.7%	9.8%	+1.1pp	—

(※) 当期中の受注動向を考慮し、AIプロダクト事業の売上高の見通しは507百万円（前期比8.9%減）から664百万円（前期比19.2%増）へ、AIソリューション事業の売上高の見通しは533百万円（前期比118.3%増）から376百万円（前期比54.2%増）へそれぞれ修正しております。売上高の見通しの総額に変更はありません。

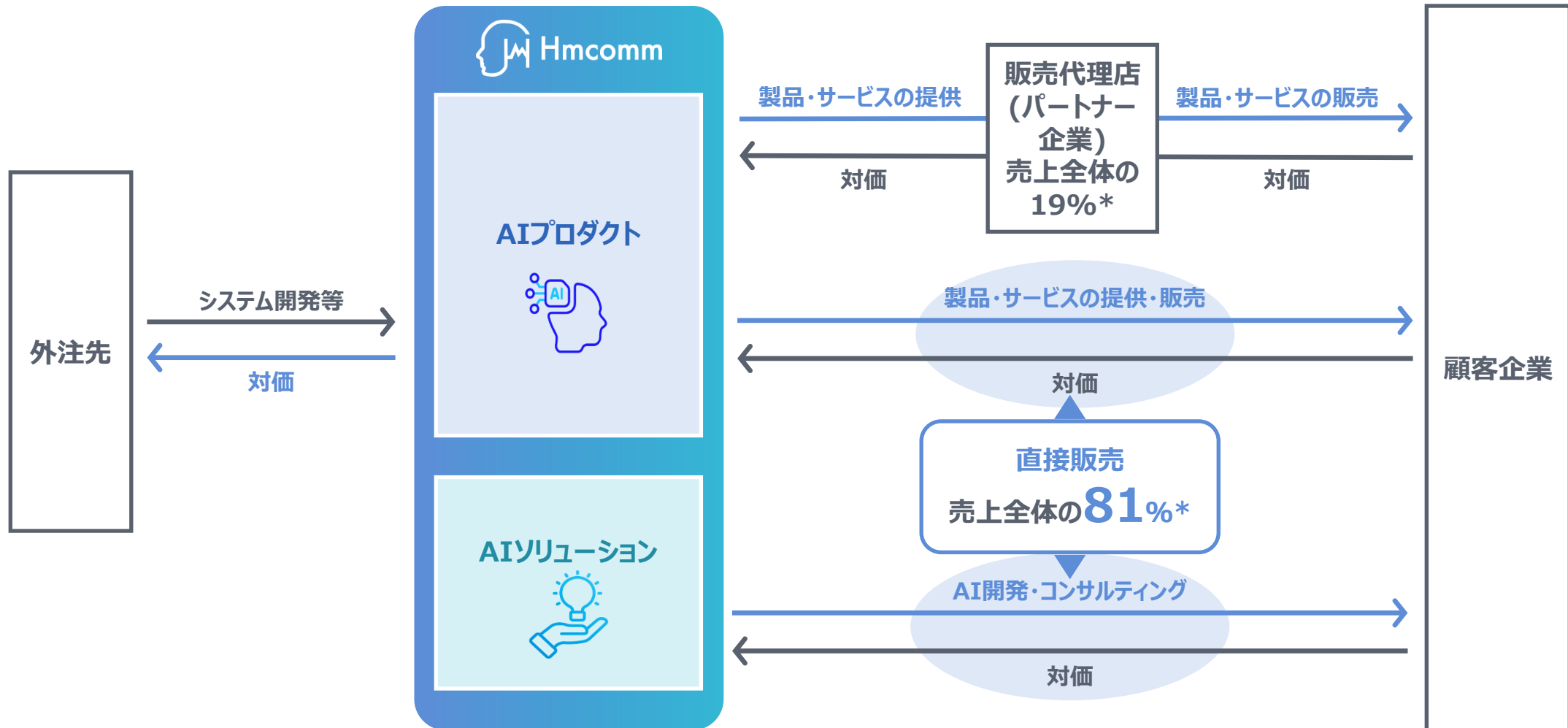
- 2024/12期経常利益は、AIプロダクト及びAIソリューションのプロジェクト数の増加などの増収効果により、材料費等の増加による原価率アップ、先行投資の人件費増及び上場関連費用等のコストアップを吸収し、+8百万円、+10%増益となる見込み



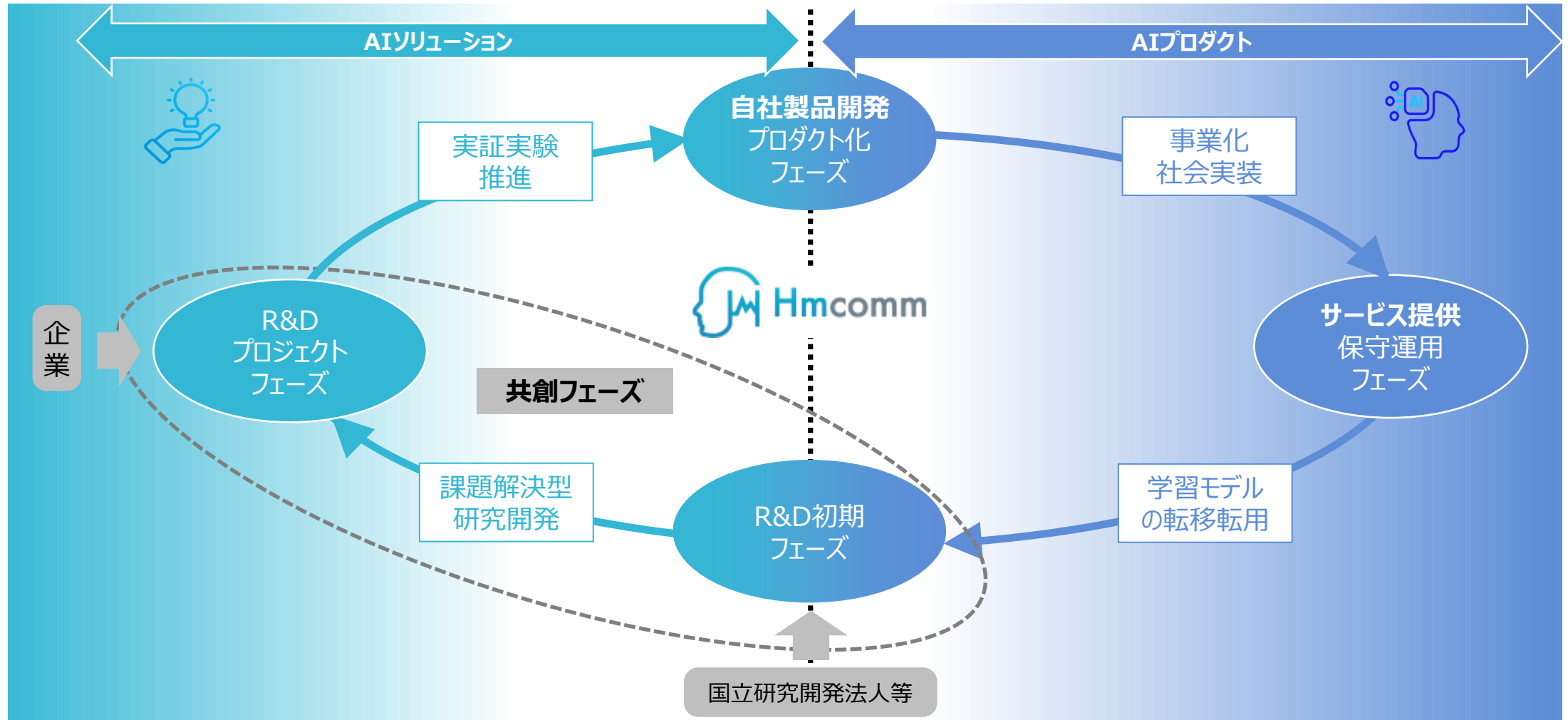
— agenda

ビジネスモデル

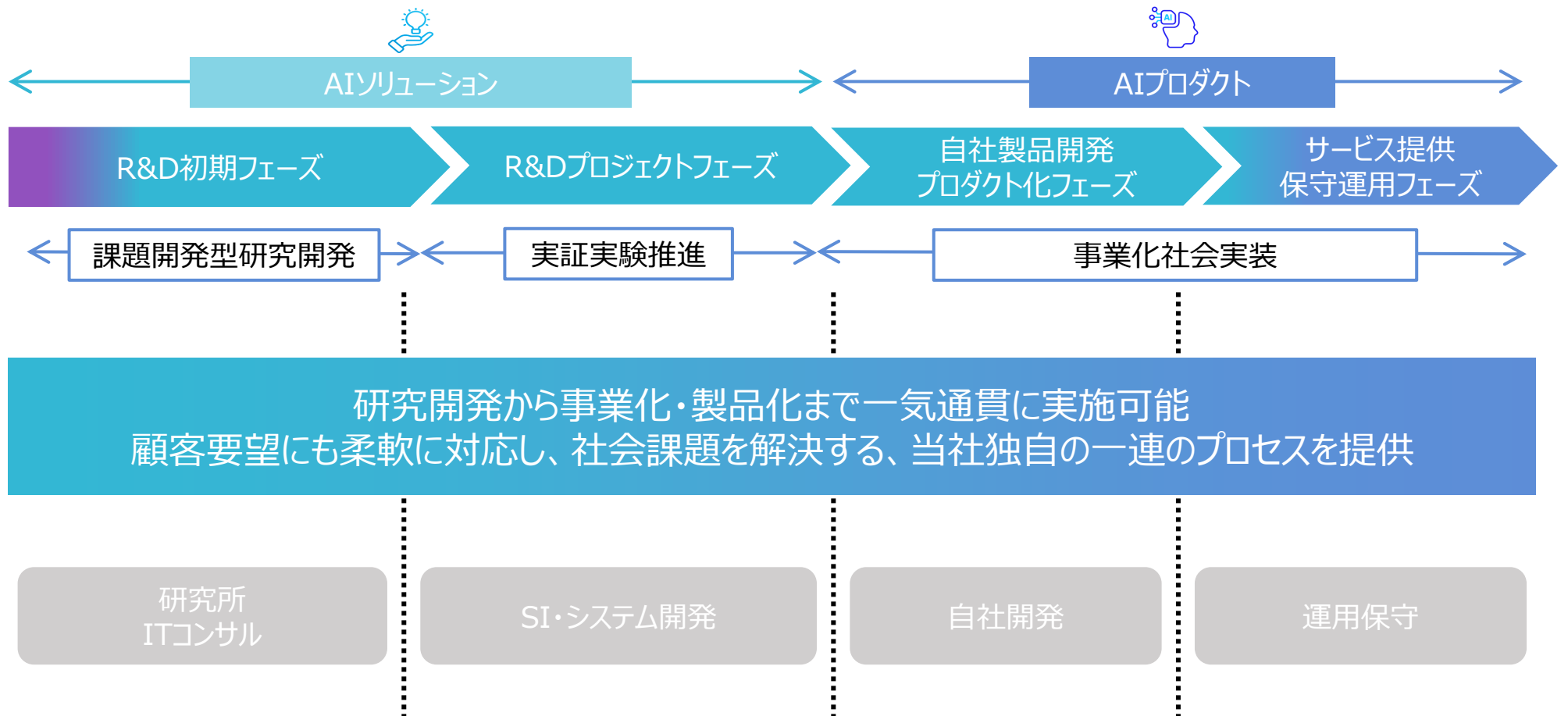
- 音声認識や異音検知ニーズのある企業が顧客というB2Bビジネス。代理店経由のケースもあるが、**全社売上の8割は直接契約**
- コア技術の研究開発および関連上流工程の開発を内部で対応。コア技術以外の下流開発工程は外注先が担うという形で役割分担をして技術力を維持しながら、効率的で迅速な開発プロセスを実現



- 研究開発から製品開発まで自社で完結。課題解決型研究開発を皮切りに、構築した学習モデルの次の課題解決への転移転用を推進
- 開発初期段階では産総研やJST、NEDOなどとの共創体制で臨み、社会課題の解決につながる研究テーマを指向

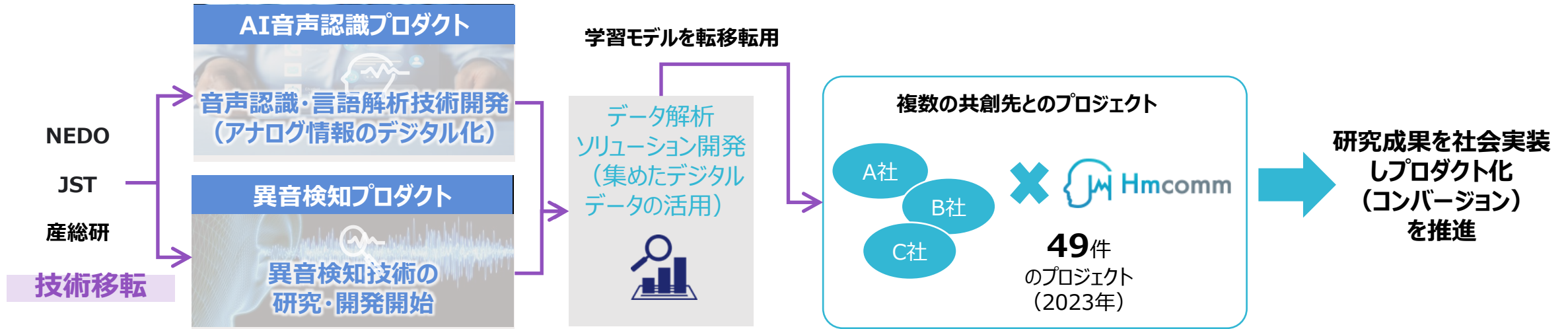
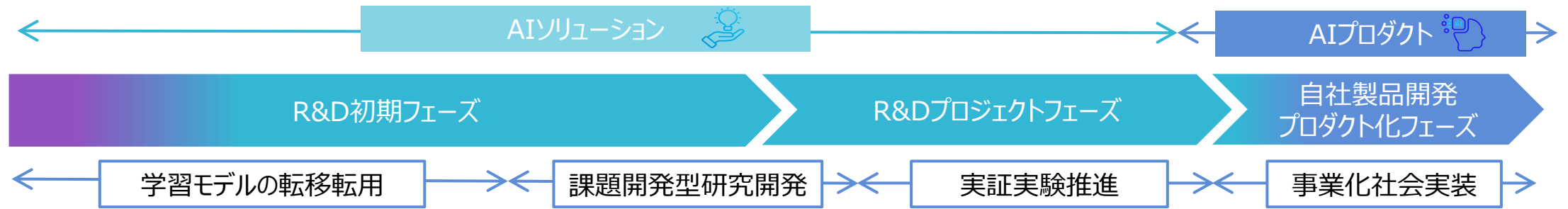


- 独自の研究開発型ビジネスプロセスにより、AIソリューションからAIプロダクトまで一気通貫での対応が可能
- 当社だけで企業固有の課題の解決を実施。その知見から業界全体の社会課題の解決につながるプロダクトの種を発見し、汎用的な機能として幅広く提供することが可能
- 当社は、中小企業を中心に大企業まで幅広く対応しつつ、顧客に合わせて柔軟にカスタマイズ、顧客に寄り添ったサービスを提供し他社との差別化を図る



- 産総研から技術移転を受けた特許を活用しつつ、音声認識プロダクト、異音検知プロダクトによる学習モデルを転移転用し、複数の共創先とともに課題解決型の研究開発を実施。そして、研究開発や実証実験により得た成果をより多くの企業で活用できるようプロダクト化（コンバージョン）を推進
- 今後の展開方針としてプロダクト事業を中心に拡大方針。プロダクト事業への入り口となるソリューションも展開

共創フェーズに関連する取組み



- AIの活用においては、データが大変重要な役割を持ち、適切なデータをどれだけ多く集めることができるかが参入障壁の一つ。また、サービスを適用する業界における知見も重要
- そこで、AIソリューション顧客群における一部事業会社との間で共創関係を構築。AI学習精度向上目的のためにデータ使用許諾を得るとともに、それら企業と協力しながら業界の知見活用を推進。2023年12月末現在、共創先29社、プロジェクト件数で49件

主な共創先

株式会社安川電機

工場における出荷判定（異音検知）の作業を自動化

株式会社ベネッセホールディングス

AIが顧客との自然会話によって通販受注の「受付・完了、受注業務」を「無人化」へ

東日本旅客鉄道株式会社

車両や線路などの鉄道事業の資産における不具合判断を異音の観点からシステム化

具体例

業種	活用例	共創先
コールセンター	音声認識、要約、自動応答、感情分析、帳票自動入力、営業支援	5社
機械	異音検知、予知予兆、品質検査	7社
鉄道	異音検知、打音検査、予知予兆	4社
航空	異音検知、予知予兆	1社
電力	異音検知、予知予兆	1社
インフラ保守	異音検知、打音検査、予知予兆	2社
ビルメンテナンス	異音検知、予知予兆	1社
メディカル	健康状態検知、うつ病認識（感情認識）	2社
畜産	咳・くしゃみ判定、発情検知	3社
エンターテインメント	足音検知、人数推計	1社
介護	介護支援・異常検知	1社
教育	学習支援	1社

— agenda

APPENDIX

会社名 Hmcomm株式会社

本社所在地 東京都港区芝大門2-11-1 富士ビル 2階

設立 2012年07月24日

代表者 代表取締役CEO 三本 幸司（みつもと こうじ）

資本金 90百万円（2024/9月末）

役員構成

代表取締役CEO 三本 幸司
専務取締役COO 伊藤 かおる
常務取締役CTO 上野 修
取締役CFO 木野 英明
社外取締役 浅田 浩（株式会社Fanta）
社外取締役 恩田 俊明（ライツ法律特許事務所パートナー弁護士）
社外常勤監査役 大和 寿子（公認会計士）
社外監査役 大野 寿和（株式会社スワローインキュベート）
社外監査役 飯田 花織（表参道パートナーズ法律事務所パートナー弁護士）

事業内容

「AIプロダクト」と「AIソリューション」

売上高

8.0億円

（2023/12期）

総資産

16.3億円

（2024/9月末）

従業員数

40名

（2024/9月末）

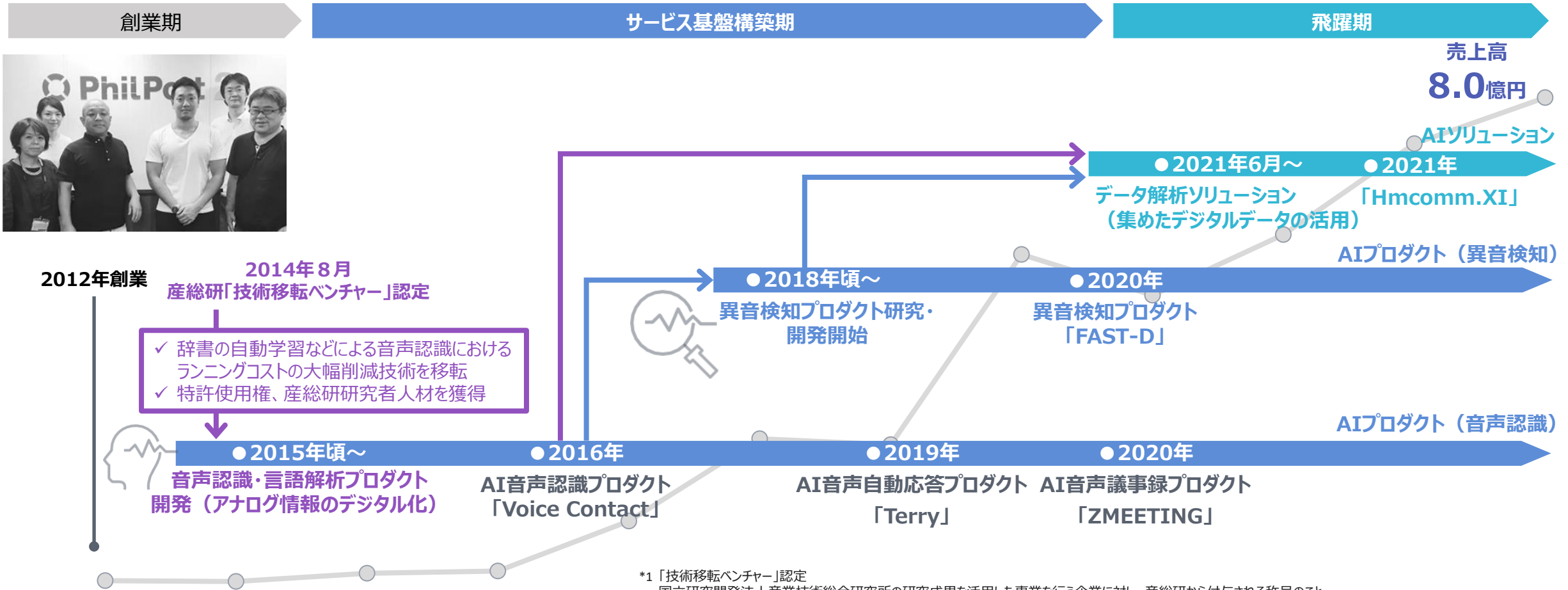
社名の由来

Human Machine Communicationの実現により、
新しい社会を自ら創造する



「Human + Machine + Communication」の頭文字

- 2012年創業。2014年「産総研技術移転ベンチャー」認定*1を契機に、「音」に着目した専門的な研究・開発をスタート
- 2015年頃より、音声認識・言語解析プロダクトを開発。2018年頃より、音の特徴を捉えて異常を早期発見するプロダクトの研究・開発を開始。そして、2021年6月より、データ解析ソリューションをスタートし、集めたデジタルデータを活用するAIソリューションを提供



*1 「技術移転ベンチャー」認定
 国立研究開発法人産業技術総合研究所の研究成果を活用した事業を行う企業に対し、産総研から付与される称号のこと
 称号を付与された企業は一定期間にわたって、産総研が経営支援（産総研より許諾を受けた特許・プログラム実施、産総研主催の展示会への出展等）を実施

- 対顧客サービスにより、「AIソリューション」と「AIプロダクト」に区分。「AIソリューション」は、特定の顧客ニーズに合わせたオーダーメイドのサービス。高度な専門知識が求められるプロジェクトベースの取り組みが中心。これに対して「AIプロダクト」は、広範な顧客層に対して汎用的に利用できる製品で、導入の容易さと即効性を重視したパッケージ型のサービス
- AIプロダクトでは、異音検知の比重は小さく、音声認識がその大半を占める

AIソリューション **30.5%**

AIデータ解析

- 顧客の経営課題を分析し、AIを活用した課題解決やDX支援を実現
- 個別オーダー型サービス。AIプロダクトの製品シーズとなる
- 受託型のノンリカーリング/リカーリング収益モデル

主な取引先

Benesse

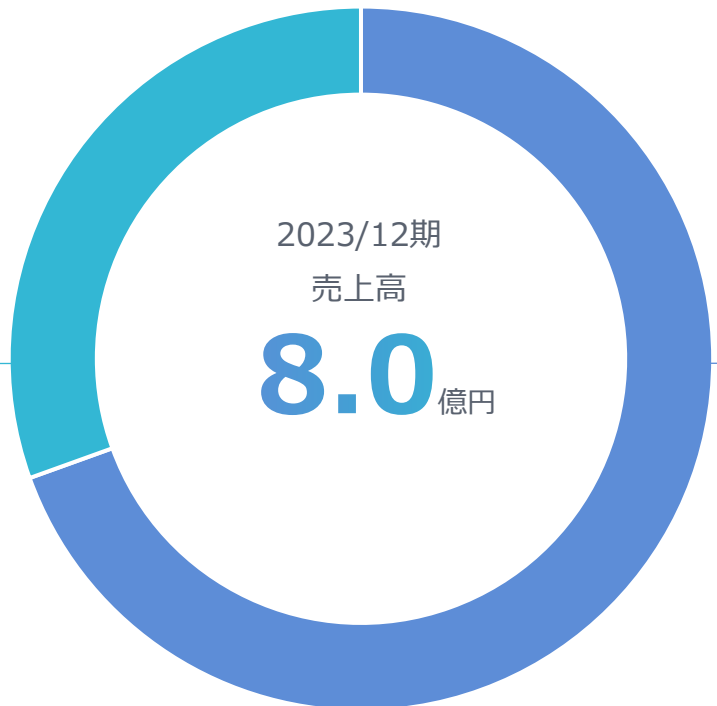
FUYO LEASE GROUP
芙蓉総合リース株式会社

Hakuhodo DY holdings

RICOH

Goodpatch

NTT PC

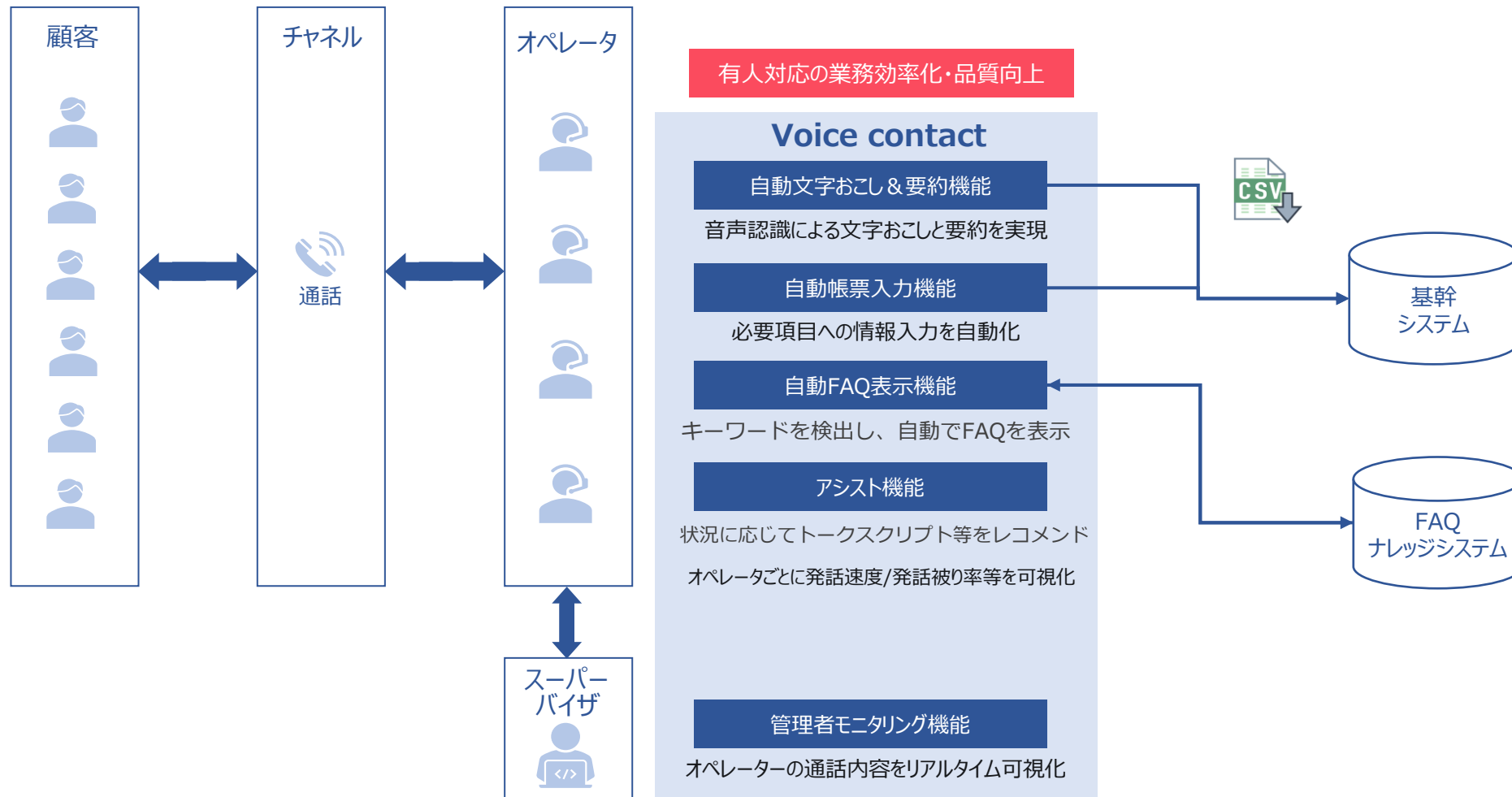


AIプロダクト **69.5%**

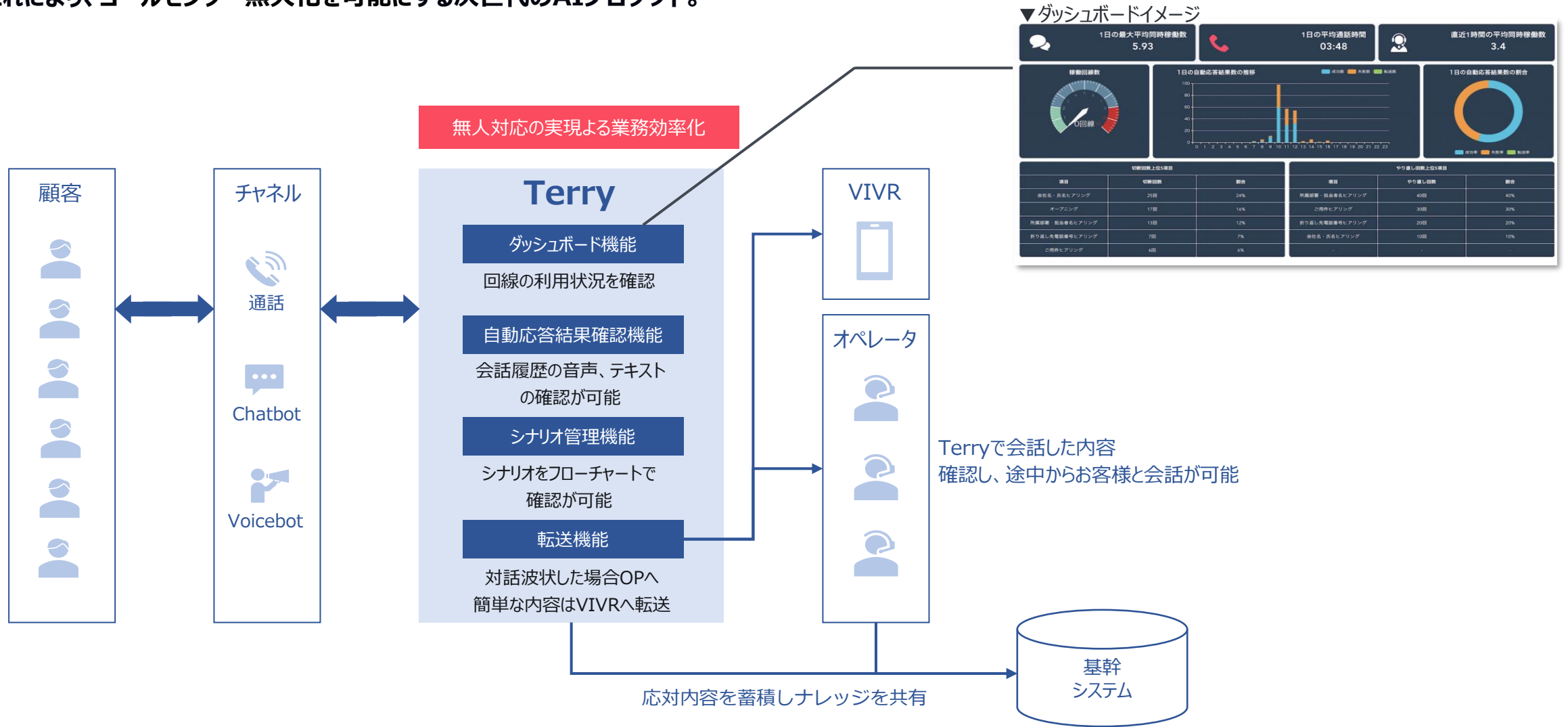
AI音声認識等 **異音検知**

- AI音声認識プロダクトとしてコールセンター向け「Voice Contact」を展開。リアルタイムに顧客とオペレータの声をテキスト化し、顧客の声を分析できるVoC分析等を提供
- 音声自動応答プロダクトとして法人向けに「Terry」を展開。顧客からの電話にAI音声自動応答が回答サービスを提供
- 異音検知プロダクトとして「FAST-D」を展開。工場インフラの異常検知や非破壊検査、機械音検知など。音の特徴を捉えて異常を早期発見
- リカーリング収益モデル

- ・Voice Contactは、音声にデータをリアルタイムに解析し、顧客対応の質や業務効率を向上させる音声認識AIプロダクト。
- ・AIを活用して、通話内容のテキスト化や自動要約を行い、コンタクトセンター業務を支援。



- ・Terryは、AIを活用した音声チャットボットで、顧客のからの質問にリアルタイムに対応し、スムーズなコミュニケーションを提供。
- ・これにより、コールセンター無人化を可能にする次世代のAIプロダクト。



- ・建物機械室内の機器稼働音をモニタリングして、故障+故障予兆を検知できるクラウドサービス。
- ・機械室内の熱源機、空調機、排気ファン等が発生する音をAIで分析し、故障時の早期対応、部品交換時期の見極めや予防保全に活用

常設マイクで集音
(24時間365日)



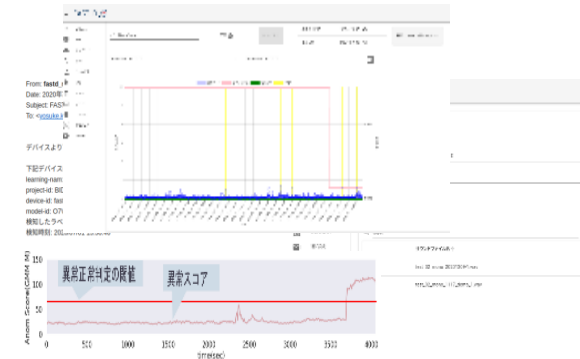
AIで判定
(エッジ端末から結果をクラウドへ)



異常

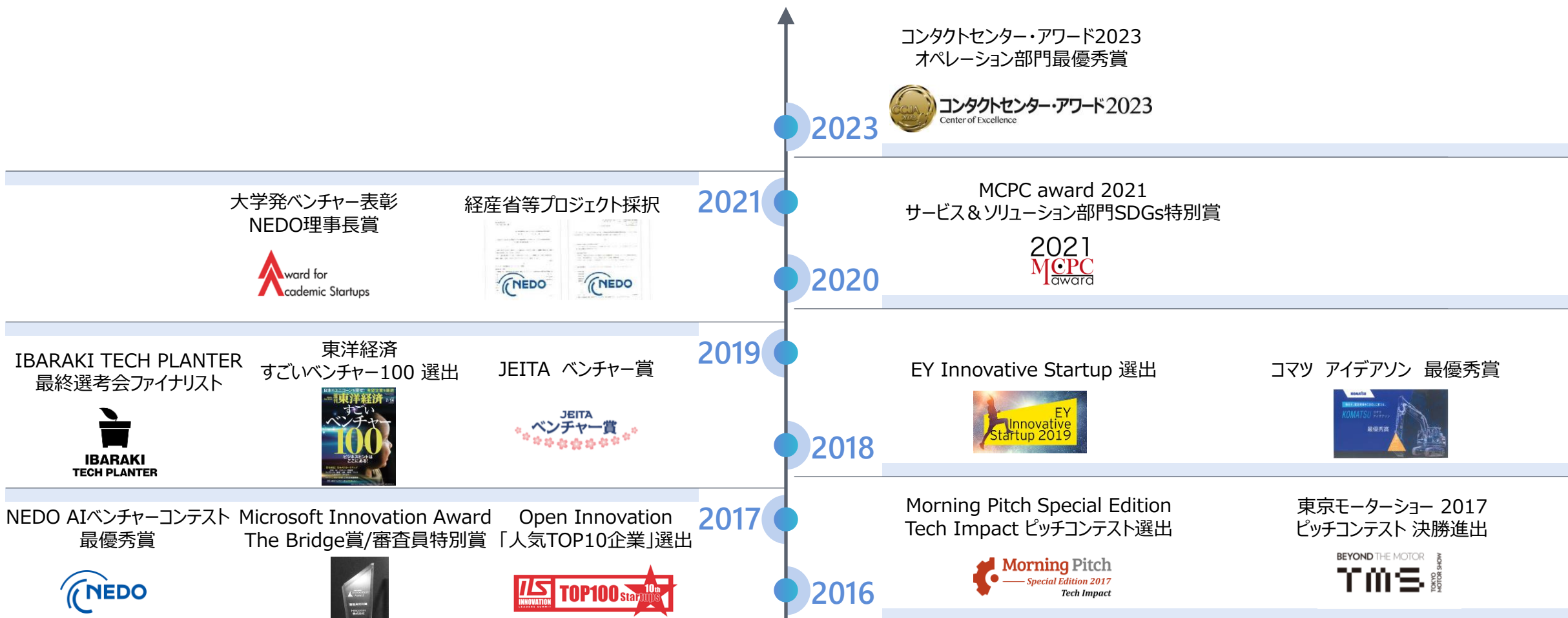


状況のモニタリングと通知
(クラウドにアクセスして確認)



- 「第3回JEITA*1ベンチャー賞」「MCPC*2 award 2021 サービス&ソリューション部門、SDGs特別賞」など、多くの賞を獲得
- また、経産省のConnected Industriesで掲げる重点5分野で、“音”をキーとした取り組みとして「スマートライフ」「プラント・インフラ保守」「ものづくり・ロボティクス」「自動走行・モビリティサービス」の4分野で事業会社と実証実験や社会実装に向けた研究・開発を推進

*1：一般社団法人電子情報技術産業協会、*2：モバイルコンピューティング推進コンソーシアム



養豚現場での 豚咳音検知

【課題】

- 呼吸器系の病気で成長が遅れ、出荷が遅延
- 病気の早期検知のために熟練者が咳やくしゃみを聞き分けていた

【効果】

- 熟練者の技術をAIに平準化し、より効率的で正確な管理が可能に
- 音声検知システムの導入により、少人数でも効果的に畜産業務を行うことが可能となり、労働力不足の解決に貢献



音声botによる 生産性向上

【課題】

- コンタクトセンターでは、通話時間を削減する取り組みの中で、本人確認に多大な時間

【効果】

- Terry導入で、入電時に自動で本人確認。その後オペレータに接続する際、画面上で自動的に本人確認状況が表示
- 確認作業が効率化され、全ユーザーのうち約30%の本人確認作業を削減 (Terryユーザー様ヒアリングより)



浄水場での 異音検知

【課題】

- 浄水場やポンプ場には多数の機械が設置されており、小さな異音は判別が難しく、これまでは熟練技術者の耳で管理

【効果】

- FAST-Dを活用し、送水ポンプ室内の排水ポンプの動作音を異音として検知。故障予測や予備保全等のCBM実現に役立つ
- 異音検知AIを自動作成できる仕組みは他にはなく、実証実験の企画から実施まで伴走し、手軽に導入



コールセンターの 後処理削減

【課題】

- **オペレータのITリテラシーの低さ**から、通話後のシステム入力や呼量増加に対応しきれない状況

【効果】

- VoiceContactの自動帳票入力機能の導入で、通話中の顧客との会話内容を自動的に帳票入力。その後、オペレータが内容を確認し、基幹システムに自動連携
- **平均処理時間（ACW）が約80%削減**（VoiceContactユーザー様ヒアリングより）



列車走行音による 異常検知

【課題】

- レールの点検では、専用車両の走行や人手による**打音検査などに多額のコスト**
- 乗務員からの走行中の異音検知も効率的に活用したい

【効果】

- 東京都次世代イノベーション創出プロジェクトの一環として、FAST-Dを活用し、列車走行中の音からレールのゆがみを検知する技術を研究開発
- **正常・異常の判定において約70%の異常検知性能を達成**
- 市販の汎用ボードを使用して、このAIモデルが実際に動作することを確認



テレビショッピングの 電話対応効率化

【課題】

- TVショッピング放送に伴い急増する**入電数への対応でのオペレータ不足**
- 受注の完了まで、自社システムやお客様に合わせた受電フローが必要

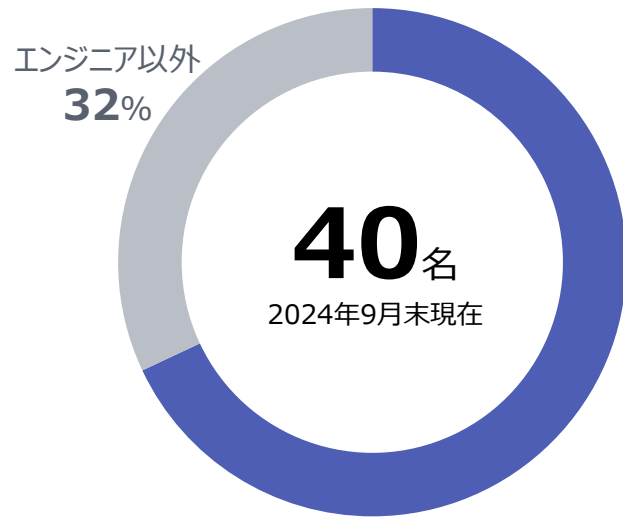
【効果】

- Terryを導入することで、入電数の変動に対応
- **受電した注文の約80%を自動処理対応**
- お客様の環境や受注フローに合わせた細かいチューニングが高く評価（Terryユーザー様ヒアリングより）

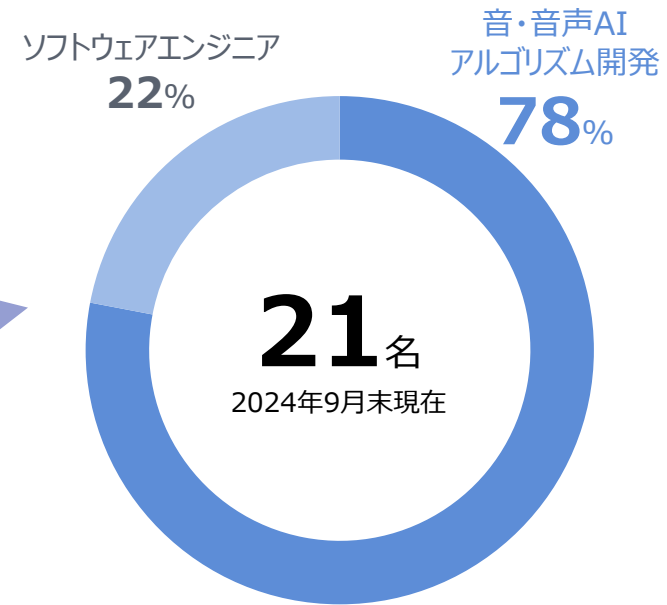


- 当社のエンジニアは社員の7割弱。うち、8割が音・音声AIアルゴリズム開発に従事。音の専門家集団
- 音の活用範囲は医療、農業、製造、生活など様々あるが、当社にはバックグラウンドの異なるスペシャリストが多くいるため、幅広い分野に柔軟に対応可能。また、専門的な知見が社内に蓄積されることで、複雑な課題にも迅速かつ効果的に対応

正社員に占めるエンジニア比率



音・音声AIアルゴリズム開発人材



年 月	内容
2012 7	「IT技術のコンサルティング業務」を目的として、H&Mコミュニケーション株式会社設立
2014 6	Hm c o mm株式会社に社名変更
8	国立研究開発法人産業技術総合研究所（産総研）により「技術移転ベンチャー」認定
2015 1	The Voice(Business：法人向け) ライセンス販売開始
2016 3	業務報告書自動作成プロダクト「VCRM」をリリース
3	音声データ自動テキスト化プロダクト「VBox」をリリース
9	AI音声認識プロダクト「Voice Contact」をリリース
12	第三者割当増資により資金調達を実施（シリーズA）
2017 3	音声認識組み込みプロダクト「VRobot」をリリース
8	総務省関東総合通信局より届出電気通信事業の届出番号を取得（届出番号：A-29-15948）
10	NEDO(国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構) 次世代人工知能・ロボット中核技術開発／次世代人工知能技術分野（調査研究）で音声認識AIを手がけるHm c o mmがコンテストの最優秀賞を受賞
2018 3	「2018年 JEITA ベンチャー賞」受賞
4	ImPACT重介護ゼロ社会を実現する革新的サイバニックシステム における、音声認識技術の応用研究へHm c o mmが参画
6	「FAST-D β版（異音・環境音検知）」をリリース
6	第三者割当増資により資金調達を実施（シリーズB）
9	九州地区での業容拡大を目的として、熊本AIラボを設立

年 月	内容
2019 2	東京都、次世代イノベーション創出プロジェクト（研究開発のテーマ：インフラメンテナンスにおける異音検知の開発）に採択
3	“EY Innovative Startup 2019”を受賞
4	AI音声自動応答プロダクト「Terry」をリリース
8	AIコールセンター「VContact Center Lab」本格稼働
10	異音検知プラットフォーム開発事業（FAST-D）がNEDOの「Connected Industries 推進のための協調領域データ共有・AIシステム開発促進事業」に採択
11	業容拡大に伴い、熊本AIラボを移転（熊本市中央区桜町）
12	第三者割当増資により資金調達を実施（シリーズC）
2020 1	ISMS*取得 認証番号IS 719254
2	「FAST-D」を活用した音による製造業パイプラインのつまり予知・予兆診断システムの開発事業がNEDOの「Connected Industries推進のための協調領域データ共有・AIシステム開発促進事業」に採択
10	音声AIによるWeb会議の可視化ツール「ZMEETING」を販売開始
10	大学発ベンチャー表彰2020にて「新エネルギー・産業技術総合開発機構 理事長賞」を受賞
2021 6	AI技術等のXI技術を活用し企業のDX推進をサポートするHmcomm.XI事業開始
11	モバイルコンピューティング推進コンソーシアム「MCPC award SDGs特別賞」を受賞
2022 8	異音検知プロダクト「FAST-Dモニタリングエディション」をリリース
2024 10	東証グロース市場に上場

*ISMS（ISO/IEC27001）：国際標準化機構（ISO）と国際電気標準会議（IEC）が共同で策定する情報セキュリティ規格で、情報資産の保護、利害関係者からの信頼を獲得するための“セキュリティ体制の確保”を目的としたフレームワーク

決算年月		2019年12月	2020年12月	2021年12月	2022年12月	2023年12月	2024年12月3Q
売上高	千円	549,502	482,930	560,648	727,175	801,196	744,089
経常利益（損失）	千円	△125,500	△209,337	74,226	145,784	87,098	116,277
当期純利益（損失）	千円	△137,370	△212,686	72,217	170,423	69,738	148,839
資本金	千円	280,000	280,000	90,000	90,000	90,000	90,000
発行済株式総数							
普通株式		1,101	1,101	1,101	1,101	1,101	3,758,000
A種優先株式	株	178	178	178	178	178	—
B種優先株式		375	375	375	375	375	—
C種優先株式		135	135	225	225	225	—
純資産額	千円	909,664	696,978	1,132,626	1,298,831	1,368,569	1,517,409
総資産額	千円	1,063,047	936,608	1,351,999	1,488,535	1,529,107	1,638,611
1株当たり純資産額(*1)(*2)	円	△317,559.01	△510.734.42	△510.734.42	△180.90	△145.57	403.76
1株当たり当期純利益(*2)	円	△124,769.04	△193,175.41	—	42.06	—	54.40
自己資本比率	%	85.6	74.4	83.6	87.3	89.5	92.6
自己資本利益率	%	—	—	7.9	14.0	5.2	9.8
営業キャッシュフロー	千円	—	—	—	121,749	103,862	—
投資キャッシュフロー	千円	—	—	—	△869	△2	—
財務キャッシュフロー	千円	—	—	—	△5,920	△36,000	—
現金及び現金同等物の期末残高	千円	—	—	—	1,238,842	1,306,702	—
従業員数	名	49	60	39	34	41	40

(*1) 株当たり純資産額については、優先株主に対する残余財産の分配額を純資産の部の合計額から控除して算定しているため、計算結果はマイナスに

(*2) 2024年7月12日付で普通株式1株につき2,000株の割合で株式分割を行っていることから、2022年12月期の期首に株式分割が行われたと仮定して、1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益又は1株当たり当期純損失を算定

< 見通しに関する注意事項 >

当資料に記載されている内容は、いくつかの前提に基づいたものであり、将来の計画数値や施策の実現を確約したり保証したりするものではありません。

問い合わせ先 経財部 IR担当 03-6550-9830 (代表) hm_ir@hmcom.co.jp